「オックスフォード大学出版古書コレクション」の公開

小井戸　みつる（資料管理課）

標記のコレクションは1985年の受け入れ後に鶴正之、雪嶋宏一両氏により概要の紹介と仮目録が作成されたが[1]、当館のオンライン目録（WINE）への入力は一部を除き未着手であった。2011 年度末より作業を再開し、このたびようやく整理を終え、WINE での公開も開始されることとなった（請求記号 F023 00442）。この機会に、整理の実務にあたった立場から、作業の報告と若干の所見を述べたい。なお、コレクションの受入経緯およびオックスフォード大学における15-18 世紀の印刷・出版史については、前述の鶴・雪嶋両氏の論考に詳述されているので、そちらを参照されたい。

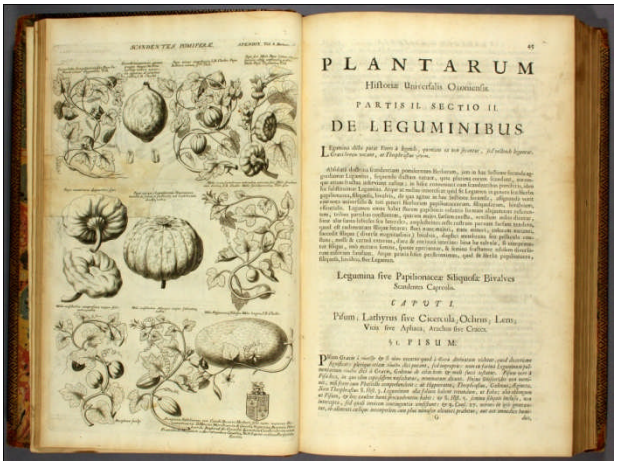
整理作業の手順

15世紀から18世紀までの英国の出版物については、すでに早くからマイクロフィルムが頒布されており、また現在はオンラインサービス Early English Books Online(以下EEBO)により、古版本のフルデータを画像イメージで閲覧することができるようになっていて、当館ではいずれも利用が可能である。本コレクションの大部分は異版異本を含めこのEEBOに収録されており、書誌データもWINEで検索できるので、整理に当たっては大いに参考にした。

その他重要な参考ツールとして British Library が提供する English Short Title Catalogue(以下 ESTC)があげられる[2]。

このサイトでは 1473 年から 1800 年に主として諸島含む英国および米国で出版された古版本の書誌データの検索閲覧ができ、それらのデータをMARC21フォーマットのタグ形式で表示させることもできる。

洋書の目録作成に当たっては、通常の図書であればOCLC[3]から該当する書誌データを探してコピーするという方法をとっているが、古版本の整理にその手法は使えない。近代以降の本とは印刷・販売手法が異なるため、同版異本（版は同じでもページ数や形態を考慮すると同一本とは考えられない本）の概念が生じてくるからである。そのため、ESTC のような信頼のおける参考ツールを用いて、手元の本と個々の書誌データとを同定することからはじめなくてはならない。ESTCの場合、書誌に variant（異本）の存在を注記してあるので書誌同定の一助となる。こうした作業を踏まえ、最終的には一般の図書と同様に WINE 上に書誌データを作成してゆく。



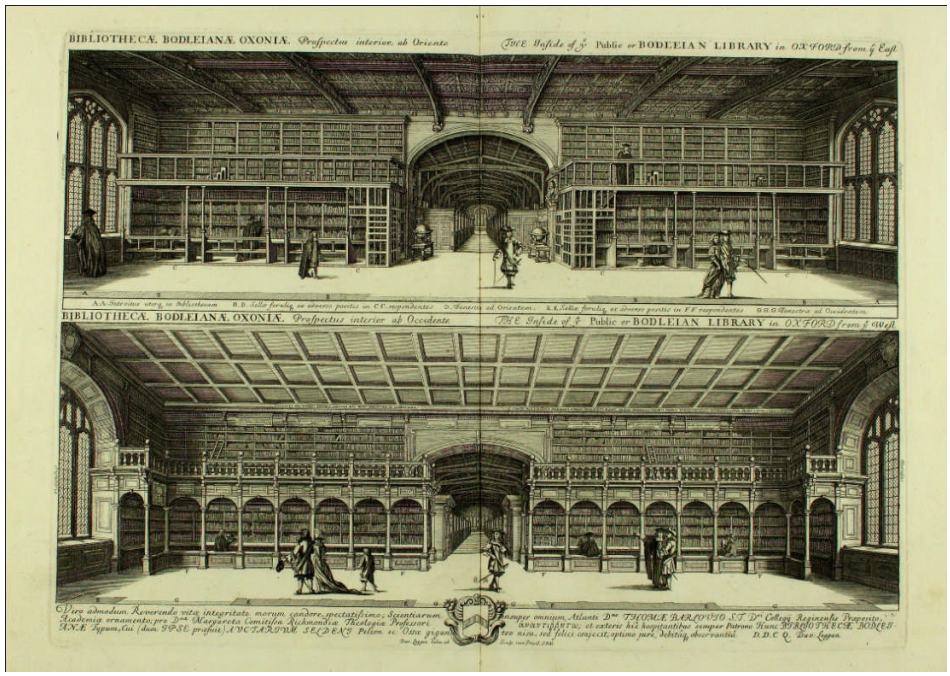
図版 1

すばらしい銅板画の数々

本コレクションの内容は主としてラテン語でかかれた神学および古典が中心ではあるものの自然科学、一般社会科学、歴史、地理学等をも含む多岐に渡っており、オックスフォード大学での研究活動が当時から幅広いものであったことを実感できる。

印刷という側面から見てみると、図書を彩る図版の精緻さに目をみはる。

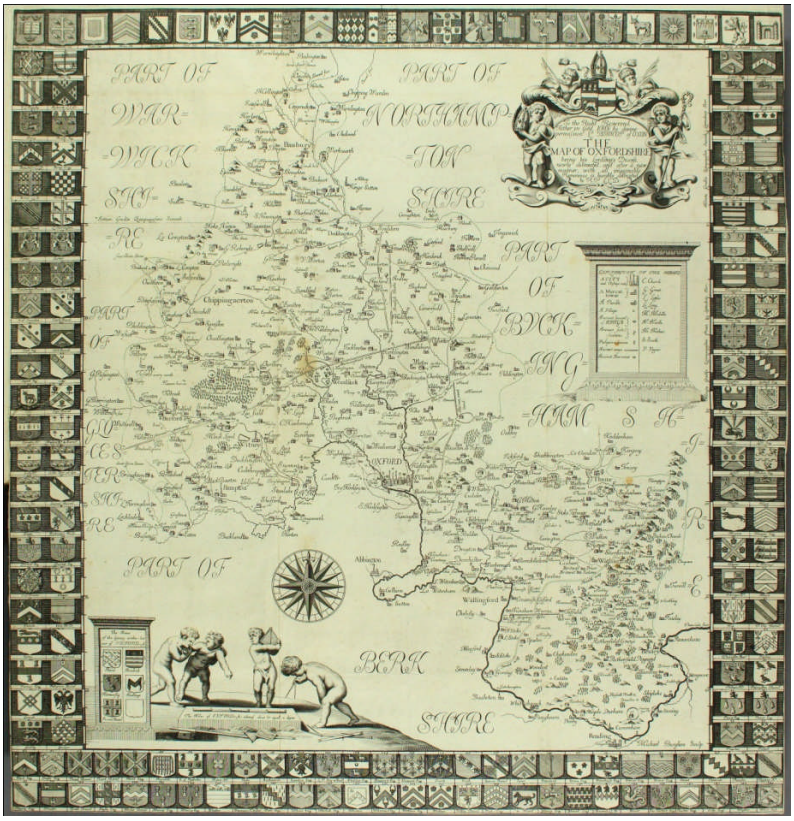
Plantarum umbelliferarum distributi nova や Plantarum historiae universalis Oxoniensis pars secunda..(F023 00442 129:1-2) では、Robert Morison による美しい植物の銅版画が楽しめ（図版 1)、Oxonia



図版 2

illustrata, sive Omnium celeberrimae istius universitatis collegiorum..(F023 00442 120) では David Loggan による驚嘆すべき精巧さで図版化されたオックスフォード大学および関連の建築物を見ることができる(図版 2)。特に後者は建築物のみならず行きかう人物の姿も描写されており、当時の風俗を知るという意味でも興味深いものだ。

Morison と Loggan の他にも重要な版画家に Michael Burghers がいるが、彼の名は今回のコレクション中最も目にする頻度が高く、新しい本の整理に取りかかり、その名に触れるたびになにか知人に出会ったような気がしたものである。Burghers の作品は数多いが、ここではオックスフォード関係の書物ということで The natural history of Oxford-Shire (F023 00442 137)からの図版をご紹介する(図版 3)。



図版 3

印刷の時代に入ってからの書物の図版は、それ以前の手写本時代とくらべると彩色に乏しいせいか地味な印象を与える。特に本コレクションでは学術書という性格もあり彩色された図版は一枚もないが、自然科学関係の書物にみられる図版の精緻さは瞠目すべきものがある。そこに当時学究の最先端を走る最高学府として、科学知識の伝達を使命と考え、印刷出版に力を注ぐオックスフォード大学の矜持を見る思いがする。

同時代の革装

本コレクションを扱った古書店のカタログによると、コレクションを構成する大部分の本の革装は、それぞれの出版年とほぼ同時代のものだという。時代とともに劣化したり、持ち主が変わり後世に製本しなおされたりする場合が多いことを考えると、これもまた本コレクションを貴重たらしめる理由の一つではないであろうか。再製本した本が少ないせいか不用意に裁断された痕跡のある本もなかった。

全体で 200 点を超える程度とコレクションとしては小規模であるが、資料の状態は非常によく、あらたに修補を必要とする図書もほぼ皆無であった。

デジタル時代と古版本

EEBO をはじめ Eighteenth Century Collections Online(ECCO) 等のサービスが開始されたことにより、インターネットを使用できる環境なら世界中どこにいても貴重な西洋古版本を電子データで閲覧できる時代になった。

日本を含む世界中の研究者にとっては大変喜ばしいことであると理解しつつ、WINE を検索して「電子資料」の表示とともに 16 世紀の書物の書誌が並ぶのはなにか複雑な気がする。

実際に古版本を手に取ってページをめくることと電子データを閲覧することの違いはなんであろうか。月並みないい方ではあるが、一点一点の書物が持つそれぞれの歴史、また特性にほかならないのではないだろうか。それは旧蔵者を示す蔵書票であったり、書き手の異なる書き込みであったり、また紙に現れたウォーターマーク(透かし)やプリンターズデヴァイス(印刷所の商標)であったりするだろう。研究対象に応じて、利用者がオンラインを利用したり現物にあたったりできる環境が最適であろうし、またそのような環境を提供することが大学図書館の使命であると共に誇りなのだと思う。

今回この貴重書群を無事整理することができ、膨大な中央図書館の蔵書からいえばわずかな数にすぎないがひそかな達成感を得ることができた。このような機会を与えて下さった資料管理課の皆様には深く感謝している次第である。

最後になったが書誌作成に当たっては前述鶴・雪嶋両氏作成の仮目録[4]を参考にさせていただいた。この場をかりて御礼申し上げたい。

---

[1] 鶴正之・雪嶋宏一「オックスフォード大学出版 古書コレクション(1585-1798)について」(『早稲田大学図書館紀要』第 28 号、1987 年 12 月)

[2] http://estc.bl.uk/F/?func=file&file_name=login-bl-estc

[3] Online Computer Library Center, Inc.の略。世界最大の書誌ユーティリティの一つ。

[4] 注 1 の論文に付された「オックスフォード大学出版古書コレクション(1585-1798) 仮目録」によれば、別途購入された補遺分も含め、古版本は 216 点となっているが、作業終了段階での請求記号によると 207 点となる。これは仮目録では、合冊された図書について内容により別個の書誌を作成しているが、請求記号は物理単位で付与するので、一見すると減少しているように見えている。